特集01

交通指導員

子どもたちを見守る頼もしい背中

12月10日㈯までは、冬の県民交通安全運動の実施期間。子どもと高齢者の交通事故防止や夕暮れ時の早めのライト点灯、飲酒運転の根絶などが重点です。本市でも交通安全の取り組みを強化。交通指導員もその担い手です。

問 交通政策課 ☎027-898-6263

地域の交通安全を守る

最近、テレビや新聞などで、登下校中の子どもたちが交通事故に巻き込まれ、被害に遭う悲しいニュースを目にします。

市内での交通事故は減少していますが、死亡事故などの重大事故は増加傾向。昨年12月には「重大交通事故連続発生に伴う市長声明」が出されました。

また、高齢化に合わせて高齢ドライバーが増加し、高齢ドライバー特有の事故などの課題も。交通事情は日々変化しています。

そんな中、交通安全の最前線にいるのが交通指導員。子どもたちの登下校を見守り誘導するほか、街頭での歩行者や自転車の指導、交通教室などもしています。交通指導員は、地域の交通安全を守る、頼もしい存在です。

今日も始まる見守りの朝

「おはよう。行ってらっしゃい」「今日は寒いね。風邪をひかないように気を付けてね」「ちゃんと帽子をかぶってね」。

冷たい木枯らしが吹くある冬の朝。東小の子どもたちの一日の始まり。交通指導員の狩野恭弘さんは、一人一人に声を掛けながら、学校へ向かう子どもたちを見守っています。子どもたちも親しげにあいさつ。

市内では現在、狩野さんのような162人の交通指導員が活躍。子どもたちの通学を見守っています。一方で、見守られている子どもたちにとっては、交通指導員は身近でみんなの憧れの存在のようです。

次男の晶さんをはじめ、3人の子どもが狩野さんの立つ通学路を通っている宮﨑留美子さん。狩野さんとは顔なじみ。「みんなに優しいし、一人一人の顔も覚えてくれている。子どもたちも親しみを持っているので、親としても安心できます」と話します。

同小教頭の柳澤仁さんも、「交通指導員と地域の人がうまく連携できていて、子どもを見守ってもらっています。学校としても、とてもありがたく思っています。狩野さんは子どもたちから『やっちゃん』と呼ばれて親しまれている、学校の人気者なんですよ」と話していました。

宮﨑 晶さん(左)宮﨑 留美子さん(右)

子どもたちに元気をもらえる

狩野 恭弘さん・39歳
江田町

今年9月で交通指導員になって丸2年。初めて指導の場所に立った時、20分間で300人の子どもたちが交差点を通っているのに驚きました。短時間に一カ所の交差点に集まりますから、赤信号で制止させるのも大変。これは、子どもたちの安全を守らなければ…と。

制服を着ていると、車や自転車もスピードを落とします。交通指導員がいることで、子どもたちの事故が減らせるんじゃないかと思っています。

大変そうなイメージがありますが、そのイメージを少しでも拭い去りたい。同じ親世代の人たちを増やせればと思っています。実際に同世代で、指導員をやろうか？と言ってくれる人もいるので、希望を持つことができます。

とてもやりがいがありますよ。大切な命を守るわけですから。それに勇気・元気をもらえます。子どもたちに感謝したくなりますね。友達感覚で接することを心掛け、今では子どもたちから「やっちゃん」と呼ばれています。成長を見届けられるのも特権。地域貢献になっているのも大きいのでは。30代、40代がもっと増えてほしいですね。